

プレアボイドフォーラム東京 2026

テーマ:プレアボイドの取り組み～ポリファーマシーの解消やがん薬物療法を通じて～

今年のプレアボイドフォーラム東京 2026 も、WEB 形式での開催 となりました。

今回は「2026 年度診療報酬改定と薬剤師の職能評価」を主軸に、東京都病院薬剤師会 会長 後藤 一美 先生より次年度への期待が述べられたほか、ポリファーマシー対策やがん薬物療法におけるプレアボイドの各施設での具体的な改善事例について講演頂きました。

【開催概要】

- ・ 日時: 2026 年 3 月15日(土)10:00～13:00
- ・ 場所: Zoom を用いた WEB 開催
- ・ 共催: 一般社団法人東京都病院薬剤師会、第一三共株式会社

【プログラム】

開会挨拶: 東京都病院薬剤師会 会長 後藤 一美 先生

基調講演:『プレアボイド報告の新展開と職能評価の可視化』

プレアボイド推進小委員会 委員長 村松 博 先生

特別講演1:『2026 年度改定におけるポリファーマシー介入の「質」への転換』

慶應義塾大学病院 薬剤部 西木美優 先生

特別講演2:『外来事前面談とがん治療におけるプレアボイドの実践』

板橋中央総合病院 薬剤部 目黒聡子 先生

施設報告1:『関信地区国立病院薬剤師会および当院におけるプレアボイド報告の取り組み』

国立病院機構東京医療センター 薬剤部 駒井 信子 先生

施設報告2:『ポリファーマシー加算とプレアボイドの実践』

東京都済生会中央病院 薬剤部 寺本 幸太 先生

閉会挨拶: プレアボイド推進小委員会 委員長 村松 博 先生

■ 開会挨拶

一般社団法人東京都病院薬剤師会 会長 後藤 一美 先生

後藤会長より、プレアボイド報告が全国的に拡大し、薬剤師の活躍の証左となっている現状についてお話しいただきました。特に、次年度の新設・改定項目に「薬剤総合評価調整加算」が組み込まれた意義は極めて大きく、病院薬剤師がさらに現場で飛躍することへの強い期待を語られました。

■ 基調講演:『プレアボイド報告の新展開と職能評価の可視化』

東京都病院薬剤師会 プレアボイド推進小委員会 委員長 村松 博 先生



基調講演では、東京都病院薬剤師会プレアボイド推進小委員会委員長より、「インシデント報告」と「プレアボイド報告」の違い、プレアボイド報告の様式1、2、3の違いやオンライン報告化について説明頂きました。報告手順に関する解説・紹介をいただきました。1999年11月から開始されたプレアボイド報告は 2024 年からオンライン化を開始し、2024 年からは様式3(薬物治療効果の向上)が追加されました。また病棟薬剤業務実施加算も 2012 年から開始となり、プレアボイド報告を押し上げてきました。次年度はその実績も一助となり、病棟薬剤業務実施加算1が 120 点から 300 点と類を見ない評価・増点となりました。本日の講演と共に自施設での取り組みや工夫を紹介され、プレアボイド報告件数の増加や各施設での職能評価などを期待していることをお話頂きました。

■ 特別講演 1:

『プレアボイド報告だけではもったいない?!～ポリファーマシー加算とプレアボイドの関係～』

演者:慶應義塾大学病院 薬剤部 西木美優 先生

座長:虎の門病院 薬剤部 柏村友一郎 先生



本講演は、ポリファーマシー対策とプレアボイド活動の関係性について、具体的な事例や診療報酬上の評価を交えながら紹介して頂きました。特に印象的だったのは、日常的に実施している持参薬確認や副作用評価、処方提案といった薬剤師業務が、薬剤総合評価調整加算につながる重要な取り組みであるという点でした。単なる減薬ではなく、多職種で薬物療法を総合的に評価し、患者の安全性やアドヒアランス向上まで含めた介入の重要性を再認識した。また、退院後の情報連携を含めた継続的な体制が今後さらに求められると感じた。今回の講演内容は、多くの薬剤師が日常業務からポリファーマシー対策や薬学的介入を積極的に取り入れていく契機となる内容でした。

■ 特別講演 2:

『がん薬物療法体制充実加算・連携充実加算取得時のプレアボイド』

演者:板橋中央総合病院 薬剤部 目黒聡子 先生

座長:明理会中央総合病院 薬剤部 遠藤祐里佳 先生



今回の講演では、がん薬物療法体制充実加算・連携充実加算における薬剤師の役割について、プレアボイド事例を交えて紹介頂きました。診察前面談や副作用モニタリング、保険薬局との情報共有を通じて、薬剤師が治療継続と患者 QOL 向上に大きく関与している点が印象的でした。特に、抗がん剤による副作用を早期に把握し、多職種連携により重篤化を防止する取り組みは、外来がん治療における重要な役割であると再認識できました。今後は、病院・薬局間での情報連携をさらに強化し、多くの薬剤師が継続的な薬学的介入を実践していきたい内容でした。

■ 施設報告

1. 『関信地区国立病院薬剤師会および当院におけるプレアボイド報告の取り組み』

国立病院機構東京医療センター 薬剤部 駒井 信子 先生

座長:日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 田杭 直哉 先生



今回の施設報告では、関信地区国立病院薬剤師会での取り組み及び自院での取り組みを踏まえて紹介頂きました。特にプレアボイド報告を啓発する研修会や表彰制度など意欲向上の仕組みなど参考になる内容でした。その他、プレアボイド活動とポリファーマシー対策、がん診療連携における薬剤師の役割について紹介頂き、多くの薬剤師が継続的なプレアボイドを通じて医療安全活動へ取り組んでいきたい内容でした。

2. 『ポリファーマシー加算とプレアボイドの実践』

東京都済生会中央病院 薬剤部 寺本 幸太 先生

座長:日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 田杭 直哉 先生



今回の施設報告では、ポリファーマシー対策とプレアボイド活動について、薬剤総合評価調整加算や多職種連携を交えて紹介いただいた。特に、限られた人員の中でもより質の高い医療提供に寄与することを目的に、持参薬評価や処方提案を標準化し、記録・情報共有を徹底することが、安全で質の高い薬物療法につながる点が印象的で、多くの薬剤師が日常業務の中でも実践していきたい内容でした。

■ 閉会挨拶

東京都病院薬剤師会医薬情報部プレアボイド推進小委員会委員長

村松 博 先生

閉会にあたり、委員長よりご挨拶を頂きました。次年度診療報酬改定を見据え、重要なポイントとなる薬剤総合評価調整加算や、がん薬物療法における薬学的介入について、プレアボイドの視点から 4 名の演者による講演・施設報告が行われました。日常業務の中で実践可能な工夫や取り組みが数多く共有され、多くの薬剤師にとって、自施設での実践を考える契機となりました。委員長からは、プレアボイド報告を薬剤師の職能評価として積極的に活用し、その専門性と存在価値を継続的に発信していくことへの期待が述べられ、閉会の挨拶とされました。



プレアボイドフォーラム東京 2026 演者の皆様とプレアボイド推進小委員会委員

記 イムス東京葛飾総合病院 亀村大